



若南プライド

令和7年6月12日 文責：永関 修

子ども達の元気な笑顔に 出会えることに感謝(^^)

新学期が始まってから、早2か月が経ちました。毎日、教室に足を運んで子どもたちに「おはよう!!」と声を掛けています。その中でも、とりわけ元気な声が返ってくるのは、1年生です。

「こうちょうせんせい、おはよう!」この時の子どもたちの笑顔が最高です。どの学年に行っても、優しい子どもたちの笑顔が



返ってきます。「教師をやってきてよかったなあ」と思える瞬間です。1年生のサツマイモの苗は、写真のように、教室の前にある畑に植えて育てています。朝、支度が終わると、朝顔の水やりとサツマイモの水やりが日課です。4月当初は、まだ不安そうな表情の時もありましたが、わずか2か月でも手に取るように成長が感じられる1年生です。ずいぶん若草南小に慣れてきたところですが、実は、新学期のスタート時、毎日1年生教室に来てお手伝いをしてくれたのが6年生でし

た。ピカピカのランドセルの中から、1年生と一緒に連絡袋や学習用具を出して机の中に入れてくれたり、笑顔で声を掛けてくれたり、愛情をたっぷりかけてもらっていたことが懐かしく感じられます。本校の上級生は、穏やかでやさしいお兄さん、お姉さんです。

若草南小を支える 上級生がいるからこそ



私がこれまで見てきた中で、上級生の底力を感じた一つが、3年生から6年生が参加して行われた児童総会です。驚いたポイントは、児童総会を運営する5、6年生で構成された本部役員や委員会の委員長の答弁です。各学級から出された質疑に対する答弁が実に分かりやすく、初めて参加した3年生が審議に誰もが集中していました。本部役員や委員長の答弁は、準備を惜しまずに用意した発表原稿が上手に読み上げられました。そして、200人を目の前にして臆せず動じない姿で、聞き手に分かりやすい速さと声の大きさと答弁が行

われました。さらに、上級生として礼儀正しくふるまい、この姿こそ、本校が目指す姿、若南プライドと思える瞬間でした。また、4年生からは、修正案が出されました。本部は、児童総会の進行を分かりやすくするため、タブレット内の原案を大型スクリーンに映し出し、論点を明らかにしました。クラスごと一斉に修正意見についての真剣な話し合いが行われ、その結果、本部の原案が可決されました。



この話し合いで評価したい点は、修正案を出した4年生が、再度クラスで真剣に話し合った結果、修正案よりも本部の原案の方が取り組みやすい内容だということに気づいた点です。児童の自主性が育ち、相手の考えをしっかりと受け止めて、若南の児童会活動の今年度の活動の目標や取り組みがより明確になりました。こうした姿を下級生が見て、伝統が受け継がれていくのだと感心しました。

長きに渡る 地域の方の ボランティア活動に 心からの感謝を

若南教育がスタートしてから、早25年が過ぎようとしています。この学校がスタートしてから、地域の方に長年にわたり、子ども達に寄り添った活動をしていただいております。写真に載っている活動は、その中の一例ですが、これまでの地域の方々の善意ある活動は、忘れてはならない存在です。朝の登校中の児童の安全を見守ってくださる方、家庭科室で教室のストーブカバーの制作やカーテンの修繕をしてくださる方、交通安全の看板をつくってくださる方、学校周辺の草取りをしてくださる方、朝の読み聞かせをしてくださっている方、校庭の樹木の管理をしてくださっている方等、若南小の子どもたちのために様々なことへ熱心に取り組んでくださり、心から感謝しております。今の若南小を支えてくださっている皆様のご厚意は、若南の財産です。



校庭の樹木の管理



クラブ活動の講師として

